

糖尿病内分泌内科

1. 2006 年度の目標および方針

1)標準的な糖尿病、代謝内分泌疾患に対する医療の提供

現在の日本における標準的な医療水準で患者サービースに問題ないか再検討を行い改善する。具体的にはインスリン製剤の検討、院内血糖測定用の POCT 機器の導入、外来診療に必要なデータの緊急検査化、糖尿病教室テキストの改訂、CSII の導入、放射性ヨード治療の導入、院内での血糖管理のマニュアル化、J-DOIT3 のような大規模臨床試験に参加し標準的な患者管理プロトコルを習得、入院症例検討会に co-medical スタッフの参加を求める。

2)前期・後期研修医教育の充実

日本の専門医の制度に対応する。日本糖尿病学会だけでなく、日本内分泌学会の教育認定施設となるようにする。それに対応し科の名称を糖尿病内分泌内科とする。毎日、新患カンファレンスか入院症例検討会を実施する。他施設よりの講師派遣による講演会実施する。

3)臨床研究・診療のフィードバックができる環境の整備

外来、入院患者のデータベースの整備と血管内皮機能測定(Flow mediated dilatation 測定)の導入、科専用のサーバーの導入を行う。またデータベース整備により標準的な糖尿病、代謝内分泌疾患に対する医療の提供ができていないか評価を行う。

2. 2005 年度の評価

糖尿病、代謝・内分泌疾患領域について全国的な傾向であるが、患者数に対するリソース(医師数、糖尿病教育指導スタッフ、指導教室)不足による悪循環が存在しており依然としてきびしい状況である。

3. 業務紹介

1)業務

糖尿病、代謝・内分泌疾患患者の診療、糖尿病教育、研修医の教育、臨床研究

2)医療スタッフ

外来(クリニック)・病棟 常勤 4 名(9~12 月は 3 名)、外来(クリニック)非常勤 1 名

4. 年間活動内容と実績

1)外来診療

平均のべ患者数：月 2,766 名

2005 年末の推定患者数：3,367 名(糖尿病 2,488 名)

2)病棟診療平均患者数：1 日 11 名

B 棟 2 階で糖尿病教室を継続。

3)スタッフ教育

研修医：初期研修医 5 名、後期研修医 3 名

Co-medical スタッフ：院内糖尿病研究会

(毎月 1 回、看護部記録参照)

臨床研究：臨床治験への参加、学会への発表

5．教育・勉強会など

1)教育

後期研修では糖尿病と内分泌それぞれの学会の必須研修領域をカバーできるようにし、専門外来、入院にて疾患管理を行う。他科の医師やメディカルスタッフからのコンサルテーションに応じ指導ができるようにし、チーム医療で患者さまのよりよいケアを目指す。自己の診療実績を評価する姿勢を維持し、臨床研究や学会活動を積極的に行うように研修を進める。

2)勉強会

- ・南房総糖尿病研究会(2005 年度にて閉会)
- ・南房総糖尿病療養指導研究会

6．学術関係

1)発表

青柳和美、白戸 輔 他：初診時極めて血糖コントロールの悪い患者に対する nateglinide の治療効果

第 48 回日本糖尿病学会総会 2005/5/12-14 座間桂子、青柳和美 他：指導困難な糖尿病患者への取り組み第 48 回日本糖尿病学会総会 2005/5/12-14

白戸 輔、榊澤政広 他：高血圧を合併した糖尿病患者でのミカルディアスの降圧効果について第 526

回日本内科学会関東地方会例会 2005/5/14 榊澤政広、青柳和美 他：胸腺腫瘍摘出術後に繰り返す口腔内カンジダ症を認め細胞性免疫低下を伴った抗 GAD 抗体陽性 SPIDDM の 1 例第 57 回日本内分泌学会総会 2005/7/1-3

2)講演

松田昌文：2 型糖尿病治療におけるレニン - アンジオテンシン系拮抗薬の臨床的有用性とテルミサルタンの可能性ミカルディアス 3 周年記念講演会ホテルアバローム 紀の国 2006/2/16

松田昌文：インスリン抵抗性と分泌能評価および民族による差第 5 回日本人におけるインスリン分泌とインスリン抵抗性に関する調査研究委員会日本糖尿病学会都市センターホテル 2006/2/26

松田昌文：2 型糖尿病治療におけるレニン - アンジオテンシン系拮抗薬の臨床的有用性とテルミサルタンの可能性 (CLINICAL HYPERTENSION UPDATE 2006、ホテルニューオータニ幕張、2006/3/17)

文責：松田昌文